

「地域の子どもの居場所」等の取組に関するヒアリング要旨

ヒアリング団体名		師岡こども学習会
ヒアリング日時		11月21日 15時30分～17時15分
実施場所		師岡町会館
参加者	対象 (役職・氏名)	師岡こども学習会 師岡地区社会福祉協議会事務局長 坂田様、今村様 (民生委員・児童委員)
	実施側 (役職・氏名)	横浜市子ども青少年局企画調整課 後藤様 浜銀総合研究所地域戦略研究部 野口

(ア)地域の子どもの居場所等を立ち上げた経緯や過程について

【P2-2 (1)】

○活動のきっかけ・経緯

地区社協の坂田事務局長は、鶴見区駒岡の子ども食堂のボランティア活動の中で、子どもと接する機会があった。師岡地域で子どもの遊ぶ姿を見かけなくなり、子どもと地域の大人が関わる機会が減ってきていることを感じていた。

師岡こども学習会の今村会長は、当時、民生委員・児童委員の地区会長の活動を通して、地域の課題が高齢者の独り暮らしから、児童虐待、保育園の待機児童、母親の相談の場など子どもに地域の課題が広がっているのを感じていた。

師岡町会館に定期的に通っている民生委員や主任児童委員、ボランティアと雑談をしている中で、子どもをテーマにした活動をしようと意見が一致した。師岡会館には台所がないため、こども食堂ではなく、子どもの学習支援の活動の立ち上げを始めた。

○立ち上げの過程

2016年8月に、地区社協の理事会で、坂田事務局長が子どもの学習支援の取組について諮ったところ、おおむね賛同が得られた。また、港北区地区社協事務局長会議で、子どもの学習支援を始めたいということをお話した。その会議に参加していた区社協の事務局長、区のこども家庭支援課の課長(当時)、区の福祉保健課の担当者の皆さんに関心を持っていただいた。

学習支援の立ち上げ期間にまず着手したのは、運営スタッフの確保。地域の中で引き受けてくれそうな方、児童委員、町内会役員、子ども会会長、師岡ひまわり代表等に直接声をかけて、運営スタッフとして関わってもらうことになった。

町内会から師岡町内会館の使用許可をもらい、学習支援の会場、学習支援に関連する物品を保管しておく場として、会館を無償で使用できることになった。

持続的に運営するためには会則が大切だと考え、区社協に協力をしてもらい会則をつくった。

子どもの募集は、2017年1月に、町内会のネットワークを使い、町内会の回覧板で募集チラシを配布した。チラシを回覧したのは、4つの町内会を範囲とする連合町内会で、住民1万人、師岡小学校校区の内師岡地区のみ。

大学生ボランティアの募集は、近隣の神奈川大学と慶応義塾大学への相談、社協ボランティアセンター、町会のチラシなどで行った。神奈川大学は本部職員が対応、慶応義塾大学は学生の自治会が対応してくれた。また、地区社協事務局長の知人から、慶応義塾大学の学生サークルを紹介してもらって、4、5人が参加してくれている。年度が変わって学生が卒業するタイミングで、サークルの先輩から後輩に頼んでくれている。大学生ボランティアは、開催までに13人が集まった。

また、区社協に参考になる学習支援団体がないか相談したところ、「港北こども学習会」を紹介いただき、見学をしてアドバイスを頂いた。

準備期間を経て、2017年4月に第1回の学習会を開催した。

○子ども、保護者について

参加している子どもは、近隣の子どもが多い。特別支援級のお子さん、外国籍のお子さんも参加している。学習支援への参加は登録制にしている。初めて参加したい旨の連絡が入ると、保護者とお会いして、趣旨説明と子どもと接するにあたり、気を付けた方がよいことや連絡先等を申込み用紙に記入していただいている。現在登録している子どもは29人（2018年11月時点）。会場の制約があるため、積極的に募集はしていない。ただ、子どもたちの間の口コミや、関わっているボランティアの方からの紹介で、新しい子どもは入ってきている。今年の4月に1年生が4人入った。

登録している保護者に対して、毎回学習会の出欠をGoogleフォームを使って確認をするようにしている。毎回の出欠を取ることで、活動が下火にならないようにしている。

2018年4月に師岡こども学習会の総会を開き、保護者が数名参加した。その時に要望を聞いたところ、もっと開催してほしいという声があった。

子どもたちが続けて参加してくれること、子どもたちの口コミで新しい子どもが入ってくることで、学習会の場を気に入ってくれていると感じている。

(ウ)連携や協力をしている団体等について

○大学生ボランティア

大学生ボランティアは今現在10人いて、各回半数程度が参加している状況。大学生が来ると子どもが喜んでくれる。

大学生ボランティアが初めて参加する時には、登録用紙に記入してもらっている。

学習支援は13時から始まるので、始まる前におにぎりなどの軽食を準備して、大学生ボランティアと運営スタッフが話す時間をつくるようにしている。

活動に継続的に関わってくれている大学生ボランティアからは、地域のことがよく理解できた、地域の祭りや子ども会のキャンプに参加するようになったと聞いている。

2コマの学習の他に、工作や実験をする「みんなの時間」を設けている。通常は、運営スタッフが企画しているが、大学生ボランティアの有志が、英語カルタなどを自ら企画して提案してくれることがある。

○地域のボランティア

大学生のボランティアの他に、地域の方で学習支援のボランティアとして参加して下さっている人がいる。近隣の住民や郵便局長、児童クラブのクラブ長、区社協の職員の方など。

学習支援ボランティアの方が中心となって、「みんなの時間」に年賀状作り（郵便局長が指導）をした。

また、学習支援に来ている子どもの祖母の方が、お菓子や果物の差し入れをして下さることがある。

○港北区社会福祉協議会

立ち上げ時に会則制定や、学習支援ボランティアの紹介をしていただいた。

「みんなの助成金」で、2017年に4万円、今年度（2018年度）は8万円。

学習会後のミーティングで区社協の方に議事録を作成いただいた。記録を残すことは重要で、今後も残したいと考えている。

○町内会 師岡町内会館の使用許可

師岡地区社協理事会で提案と決議。社協の決議をもって師岡地区連合町内会（会館の管理者）の役員会で承認を得た。

○港北地域の学習支援団体

・港北こども学習会からは、立ち上げの際に学習会を見学し、アドバイスをいただいた。また、この度（2018年9月）、連携して活動することになった。

・港北こども勉強会（生活保護の学習支援事業を実施）見学に来たことがある。

・港北区で2地域の学習支援を立ち上げようとしている団体の方が見学に来ている。

○フォーラムでの発表

- ・港北ほくほくフェスタ 2017年10月
- ・市民向けフォーラム 2018年2月

○メディア等への掲載

- ・日本教育新聞 2018年9月
- ・福祉タイムズ 2018年6月
- ・福祉よこはま 2018年3月
- ・ふくしのまど・港北区ボランティアセンター通信 2018年1月
- ・ダウンニュース 2017年6月

※紙面は師岡こども学習会ウェブサイト (<https://morooka-codomo.jimdo.com/>) に掲載

(エ)活動を行う上で感じている課題について

【P4-3 (1)、(2)】

○大学生ボランティアの活動継続と新規確保

大学生ボランティアの安定的な確保が大きな課題となっている。大学生は卒業のタイミングや、他の活動が忙しくなることで、ボランティアを休むことがある。現在、東洋英和大・昭和薬科大、慶應義塾大、神奈川大、関東学院大などの学生がボランティアとして参加してくれている。慶應義塾大学の児童文化研究会の大学生ボランティアは、サークルの先輩から後輩に紹介をしてくれている。学生の中にサークルなどのつながりがない個人ベースの参加の場合は、次の学年になかなかつながっていかない。

昨年、市に教職員として就職する学生ボランティアがいた。子どもとの教育のテーマなどに関心の高い学生であり、このような学生に参加してもらえるような働きかけが必要だと感じている。

○活動資金について

区社協の助成金(みんなの助成金)は、教材費(100円ショップで購入)や、ボランティアの交通費の支払いに充てている。飲食費には使えないのでおやつなどは地区社協からの助成金で賄っている。

(オ)活動に関する相談先について

【P3-2 (9)】

活動の立ち上げ時は、区役所や区社協などに相談をしていたが、現在は職員の異動で区役所とのつながりは、あまりない。区社協は、地区社協の事務局長をしている関係からつながりは継続している。

立ち上げ当初、区役所や区社協からは、進捗状況を聞かれた。進捗を説明する中で激励を受けた。励みになった。とくにこども家庭支援課長には、学習会にたびたび参加いただいた。そのことを当時の区長に報告されていたと思う。2018年頭の師岡地区連合町内会賀詞交歓会の挨拶の中で、区長から師岡こども学習会の紹介があり、「スピーディな立ち上げとその活動」に対して、お褒めの言葉をいただいた。たいそう励みになった。

第4回目の2017年7月学習会の時に、大学生ボランティアを関係者に紹介しようと師岡こども学習会お披露目を開いた。区役所、区社協、地域ケアプラザ、小学校長、師岡コミハ等来賓として来ていただいた。もちろん、連合町内会役員、近隣の郵便局長、学童クラブの方も出席いただいた。

(カ)活動を通じて、良かったこと、嬉しかったエピソード

【P4-3 (3)】

街中で、子どもが声をかけてくれるようになったことが嬉しい。また、運営側から、子どもの様子が気になった時にどうしたの?など声をかけやすくなった。

(キ)区役所、区社会福祉協議会、地域ケアプラザとの関わり

【P3-2 (9)】

活動の立ち上げ時は、区役所や区社協などに相談をしていたが、現在は職員の異動で区役所とのつながりは、あまりない。区社協は、地区社協の事務局長をしている関係からつながりは継続している。

地域ケアプラザとの関わりはなかったが、2019年2月の樽町地域ケアプラザ「福祉まつり」で、こども学習会を紹介することにしている。坂田事務局長が樽町ケア福祉まつりの実行委員になっている関係から紹介することになった。みんなの時間の工作実験コーナーを設ける予定。

今後の展望としては、最低 3 年くらいは活動を継続したいと考えている。大学生を確保できれば、活動の継続はできると思う。(3 年経てば根付くと思う)

今後は、地域と学生の関係をもっと作りたいと思っている。学生ボランティアが所属している慶應義塾大学の学生サークルの中で、地域とのかかわりや結びつきをテーマとしたボランティアグループができないか相談してみたが、今すぐの実現は難しそうな状況。

その学生サークルの中に、影絵と人形劇のグループがあり、町内会館で 2019 年 2 月に公演してくれることになった。区の地域福祉保健計画のグループと協働し、町内会とこども学習会の共催でイベントを開催する。このイベントには、大学生が大勢来る予定なので、学生との接点を増やしたいと考えている。

その他

○学習支援ボランティアの手引き

埼玉県（埼玉県教育委員会編 平成 23 年発行）の学習支援ボランティア養成プログラムを参考に、師岡こども学習会のボランティア養成プログラムの資料を作成した。ボランティアの養成にはこれまでのところ使用していないが、資料作成をきっかけに、障害を持つお子さんへの理解が深まった。

※調べた時に、横浜市には学習支援の手引きがなかった。

○子ども同士のつながりについて

子ども同士のつながりという観点では、子ども同士で自己紹介をして、学校で会ったら声掛けしようねということをお話したことはある。今回から、子どもに名札をつけてもらうようにした。